

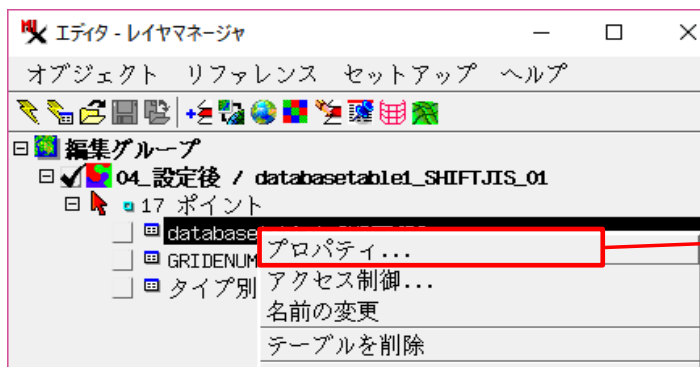
# 既存レコードにデータを代入する方法

[既存レコードにデータを入れる(Populate Existing Records)]は、次のような場合に使うことができます。

- A 「固定値の代入」 … 複数のレコードに同じ値を一括入力したい場合
- B 「フィールドデータの代入」 … レコードに別のフィールドの持つデータを代入する場合
- C 「自動インクリメント」 … 各レコードに連続した番号を代入する場合

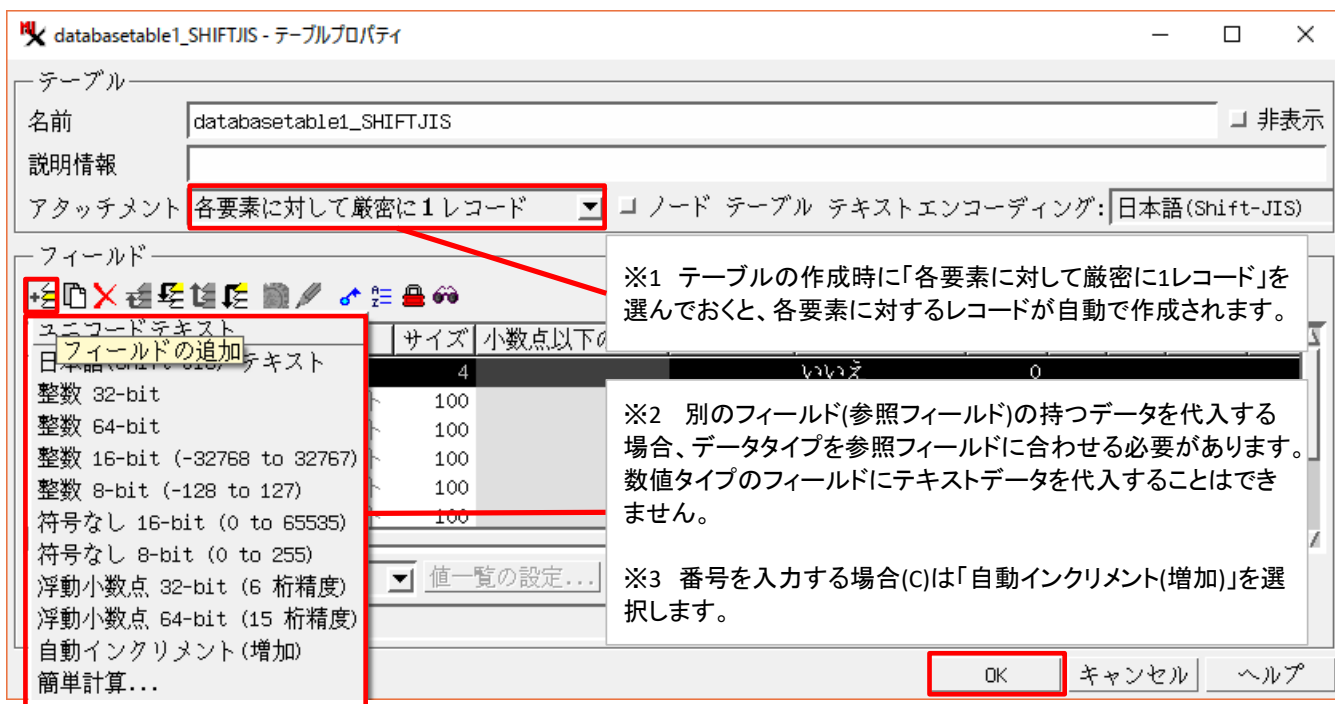
## 1 準備 ～テーブルとフィールドを作成します～

▼テーブルのプロパティを開き、新規フィールドを追加します。



テーブル名  
の上で右クリックし、  
「プロパティ」を選びます。

▼[フィールドの追加]アイコンから適合するタイプを選んで新規フィールドを作成します。[OK]でプロパティを閉じます。



※1 テーブルの作成時に「各要素に対して厳密に1レコード」を選んでおくと、各要素に対するレコードが自動で作成されます。

※2 別のフィールド(参照フィールド)の持つデータを代入する場合、データタイプを参照フィールドに合わせる必要があります。数値タイプのフィールドにテキストデータを代入することはできません。

※3 番号を入力する場合(C)は「自動インクリメント(増加)」を選択します。

## 2 データの代入 ～テーブルを開き、既存レコードにデータを代入します～

A～Cから目的のデータの代入に進みます。

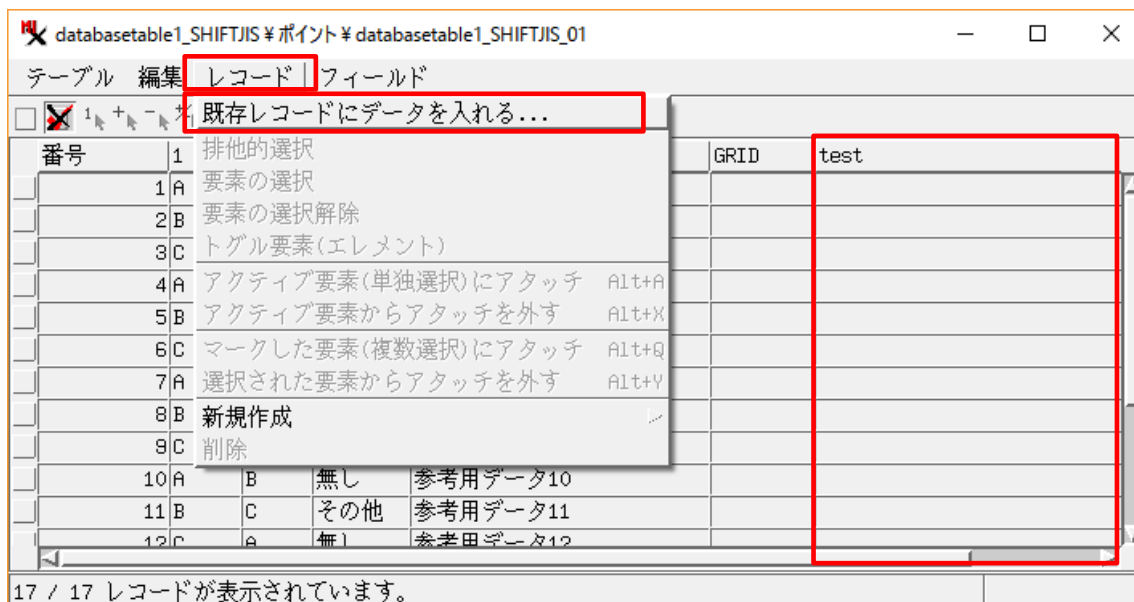
固定値の代入 →Aへ

フィールドデータの代入 →Bへ

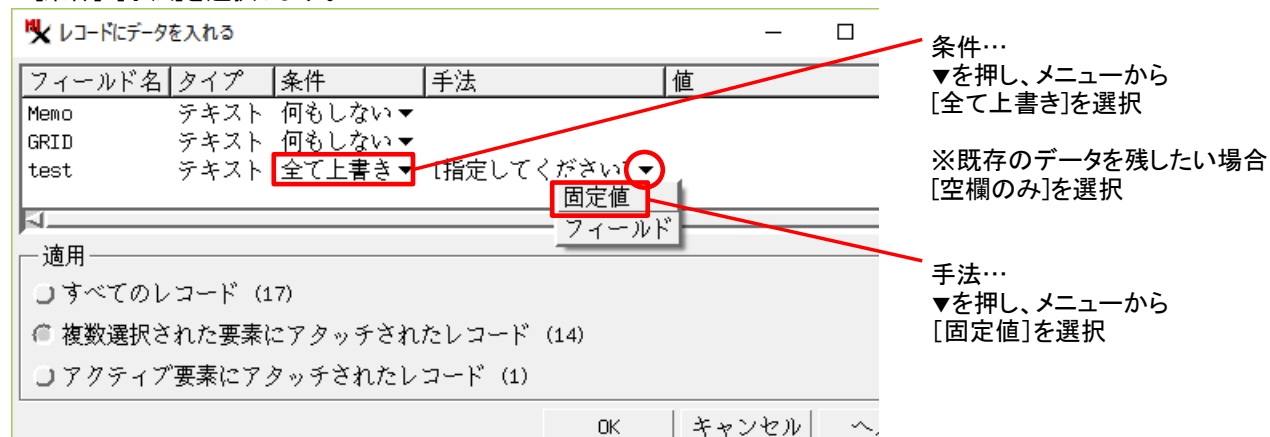
自動インクリメント →Cへ

## A 固定値の代入

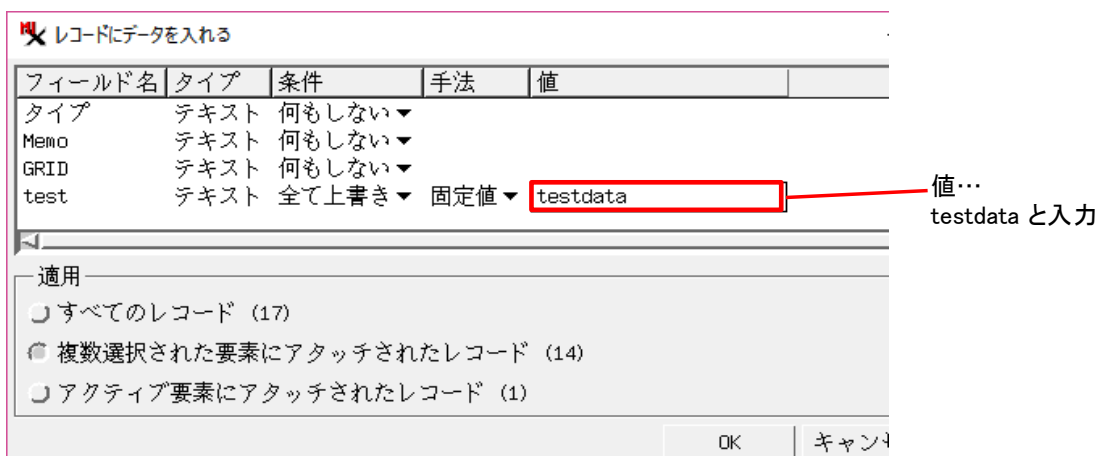
▼[test]フィールドに固定値を入力します。  
[レコード]>[既存レコードにデータを入れる]を選びます。



▼[条件]・[手法]を選択します。



▼値の入力



▼[適用]パネルで適用するレコードを選びます

フィールド名	タイプ	条件	手法	値
Memo	テキスト	何もしない▼		
GRID	テキスト	何もしない▼		
test	テキスト	全て上書き▼	固定値▼	testdata

適用

すべてのレコード (17)

複数選択された要素にアタッチされたレコード (14)

アクティブ要素にアタッチされたレコード (1)

OK キャンセル ヘルプ

レコードを選択していた場合、  
選択肢が出ます。  
トグルボタンで指定します。

[OK]を押します

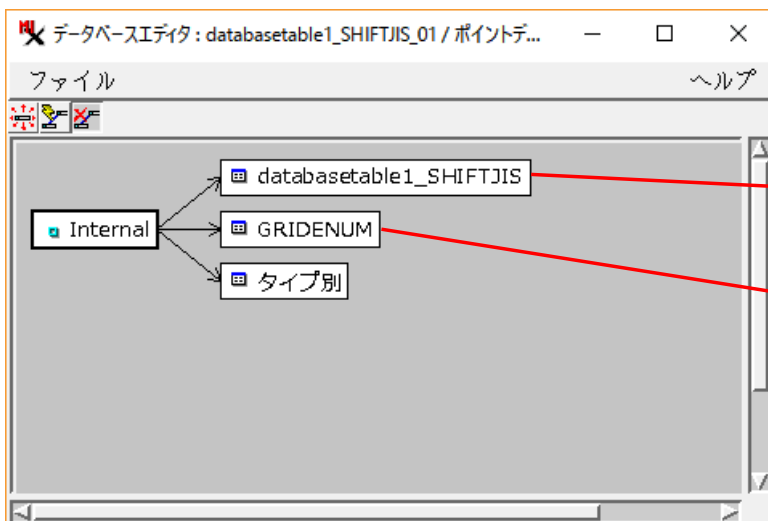
▼結果。[test]フィールドに値が入りました。

番号	1	2	タイプ	Memo	GRID	test
1	A	B		参考用データ1		testdata
2	B	C		参考用データ2		testdata
3	C	A		参考用データ3		testdata
4	A	B		参考用データ4		testdata
5	B	C		参考用データ5		testdata
6	C	A		参考用データ6		testdata
7	A	B	その他	参考用データ7		testdata
8	B	C	その他	参考用データ8		testdata
9	C	A	その他	参考用データ9		testdata
10	A	B	無し	参考用データ10		testdata
11	B	C	その他	参考用データ11		testdata
12	C	A	無し	参考用データ12		testdata
13	A	B	その他	参考用データ13		testdata
14	B	C	無し	参考用データ14		testdata
15	C	A	有り	参考用データ15		testdata
16	A	B	その他	参考用データ16		testdata
17	B	C	その他	参考用データ17		testdata

17 / 17 レコードが表示されています。

## B フィールドデータの代入

▼データを持つフィールド(参照フィールド)のレコードは、要素を介して参照されます。  
データを代入するフィールド・参照フィールドのレコードは、どちらも要素への関連付け(※)が必要となります。



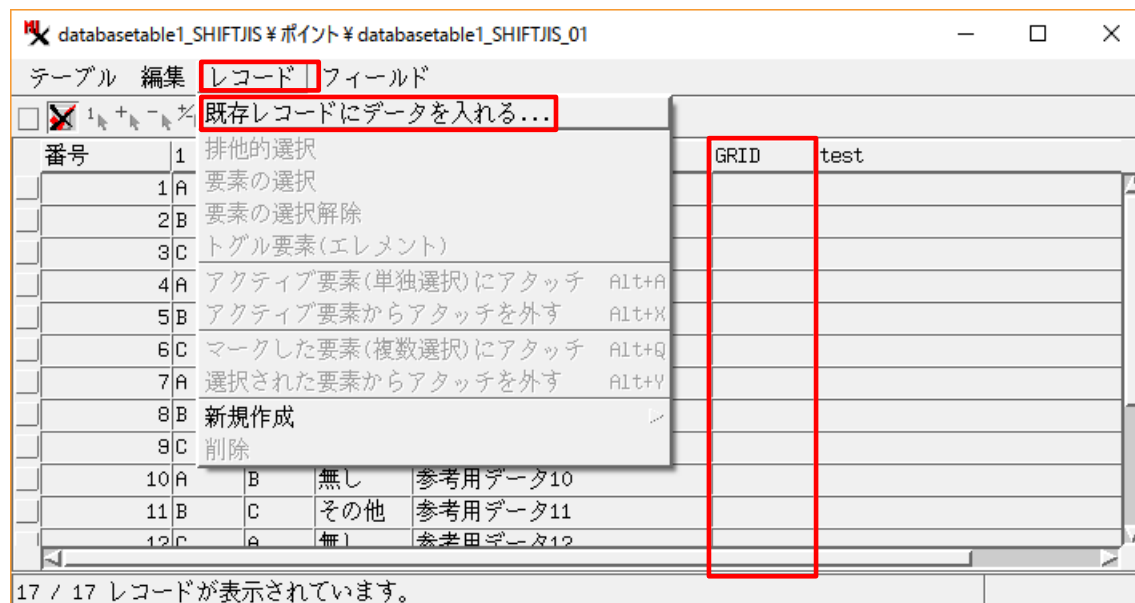
※関連付けとは  
要素に直接アタッチするか  
リレートにより間接的に要素と  
アタッチすること

データを代入するテーブル  
データを持つテーブル  
(参照テーブル)

どちらも要素に  
アタッチ  
されている

↑このウィンドウを表示するには、(レイヤマネージャ)のポイント要素の右ボタンメニューをから[リレーションの修正]を選びます。

▼[GRID]フィールドに他のフィールドの値を代入します。  
[レコード]>[既存レコードにデータを入れる]を選びます。



17 / 17 レコードが表示されています。

▼[条件]・[手法]を選択します。

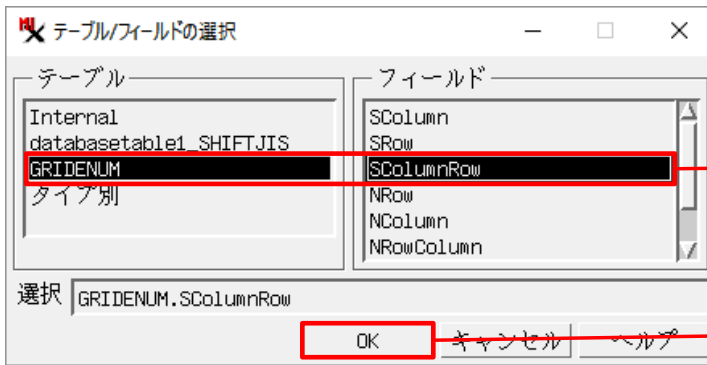
レコードにデータを入れる

フィールド名	タイプ	条件	手法	値
番号	整数	何もしない▼		
1	テキスト	何もしない▼		
2	テキスト	何もしない▼		
タイプ	テキスト	何もしない▼		
Memo	テキスト	何もしない▼		
GRID	テキスト	全て上書き▼	[指定してください]▼	
test	テキスト	何もしない▼		

条件…  
▼を押し、下のメニューから  
[全て上書き]を選択  
何もしない  
全て上書き  
空欄のみ

手法…  
▼を押し、メニューから  
[フィールド]を選択

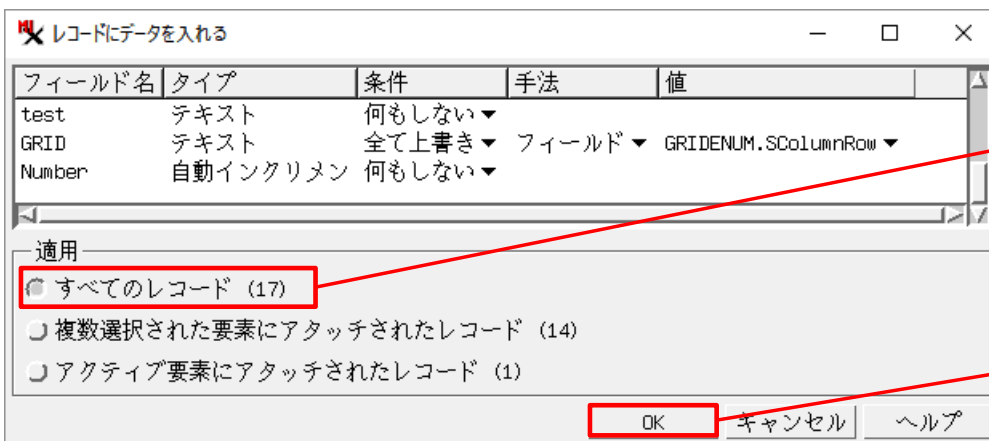
▼参照するデータを持つテーブルとフィールドを選びます。



参照するテーブル・フィールドを指定

[OK]を押します

▼[適用]パネルで適用するレコードを選びます。



レコードを選択していた場合、左の選択肢が出ます。トグルボタンで指定します。

[OK]を押します

▼結果。[GRID]フィールドにデータが入りました。

datagridasetable1\_SHIFTJIS ¥ポイント¥ databasetable1\_SHIFTJIS\_01

テーブル 編集 レコード フィールド

番号	1	2	タイプ	Memo	GRID	test
	1	A	B	参考用データ1	P14	testdata
	2	B	C	参考用データ2	L4	testdata
	3	C	A	参考用データ3	L7	testdata
	4	A	B	参考用データ4	J1	testdata
	5	B	C	参考用データ5	I3	testdata
	6	C	A	参考用データ6	I1	testdata
	7	A	B	その他 参考用データ7	H1	testdata
	8	B	C	その他 参考用データ8	G6	testdata
	9	C	A	その他 参考用データ9	G3	testdata
	10	A	B	無し 参考用データ10	L7	testdata
	11	B	C	その他 参考用データ11	J3	testdata
	12	C	A	無し 参考用データ12	J3	testdata
	13	A	B	その他 参考用データ13	I2	testdata
	14	B	C	無し 参考用データ14	J4	testdata
	15	C	A	有り 参考用データ15	L7	testdata
	16	A	B	その他 参考用データ16	J1	testdata
	17	B	C	その他 参考用データ17	I7	testdata

17 / 17 レコードが表示されています。

参照するテーブル・フィールドに「Internal.x」と「Internal.y」を選ぶと、テーブルに座標値を代入することが出来ます。

## C 自動インクリメント

▼「自動インクリメント」タイプのフィールドが必要です。

テーブルプロパティ

名前: databasetable1\_SHIFTJIS

説明情報: databasetable1\_SHIFTJIS.csvから読み込まれたデータベース

アタッチメント: 1要素に対して複数レコード

フィールド名	タイプ	サイズ	小数点以下の桁数	表示用単位	空白を許さない	初期値	最小	最大	使用法
1	ユニコードテキスト	1			いいえ				
2	ユニコードテキスト	1			いいえ				
タイプ	ユニコードテキスト	3			いいえ				
Memo	ユニコードテキスト	8			いいえ				
GRID	ユニコードテキスト	3			いいえ				
test	ユニコードテキスト	100			いいえ				
<b>Number</b>	<b>自動インクリメント(増加)</b>	<b>4</b>			いいえ	<b>1</b>			

リレート先: なし

入力スタイル: 無効な値の際の動作:

[初期値]を入力します

▼[Number]フィールドに昇順の数値を代入します。  
[レコード]>[既存レコードにデータを入れる]を選びます。

テーブル編集

レコード

既存レコードにデータを入れる...

番号	操作	GRID	test	Number		
1	排他的選択					
1A	要素の選択	P14	testdata	0		
2B	要素の選択解除	L4	testdata	0		
3C	トグル要素(エレメント)	L7	testdata	0		
4A	アクティブ要素(単独選択)にアタッチ	J1	testdata	0		
5B	アクティブ要素からアタッチを外す	I3	testdata	0		
6C	マークした要素(複数選択)にアタッチ	I1	testdata	0		
7A	選択された要素からアタッチを外す	H1	testdata	0		
8B	新規作成	G6	testdata	0		
9C	削除	G3	testdata	0		
10A	B	無し	参考用データ10	L7	testdata	0
11B	C	その他	参考用データ11	J3	testdata	0
12C	A	無し	参考用データ12	J3	testdata	0
13A	B	その他	参考用データ13	I2	testdata	0
14B	C	無し	参考用データ14	J4	testdata	0
15C	A	有り	参考用データ15	L7	testdata	0
16A	B	その他	参考用データ16	J1	testdata	0
17B	C	その他	参考用データ17	I7	testdata	0

17 / 17 レコードが表示されています。

▼[条件]・[手法]を選択します。

条件…  
▼を押し、メニューから  
[ゼロならば]を選択

手法…  
▼を押し、メニューから  
[シーケンシャル]を選択

フィールド名	タイプ	条件	手法	値
タイプ	テキスト	何もしない▼		
Memo	テキスト	何もしない▼		
GRID	テキスト	何もしない▼		
test	テキスト	何もしない▼		
Number	自動インクリメント(増加)	ゼロならば▼	[指定してください]▼	

適用

すべてのレコード (17)

複数選択された要素にアタッチされたレコード (14)

アクティブ要素にアタッチされたレコード (1)

OK キャンセル ヘルプ

▼[適用]パネルで適用するレコードを選び、[OK]を押します。

適用

すべてのレコード (17)

複数選択された要素にアタッチされたレコード (14)

アクティブ要素にアタッチされたレコード (1)

OK キャンセル ヘルプ

▼結果。[Number]フィールドに昇順の値が代入されました。初期値は「1」です。

databasetable1\_SHIFTJIS ¥ポイント¥ databasetable1\_SHIFTJIS\_01

テーブル 編集 レコード フィールド

番号	1	2	タイプ	Memo	GRID	test	Number
	1	A	B	参考用データ1	P14	testdata	1
	2	B	C	参考用データ2	L4	testdata	2
	3	C	A	参考用データ3	L7	testdata	3
	4	A	B	参考用データ4	J1	testdata	4
	5	B	C	参考用データ5	I3	testdata	5
	6	C	A	参考用データ6	I1	testdata	6
	7	A	B	参考用データ7	H1	testdata	7
	8	B	C	参考用データ8	G6	testdata	8
	9	C	A	参考用データ9	G3	testdata	9
	10	A	B	参考用データ10	L7	testdata	10
	11	B	C	参考用データ11	J3	testdata	11
	12	C	A	参考用データ12	J3	testdata	12
	13	A	B	参考用データ13	I2	testdata	13
	14	B	C	参考用データ14	J4	testdata	14
	15	C	A	参考用データ15	L7	testdata	15
	16	A	B	参考用データ16	J1	testdata	16
	17	B	C	参考用データ17	I7	testdata	17

17 / 17 レコードが表示されています。

# 新規レコードにデータを代入する方法

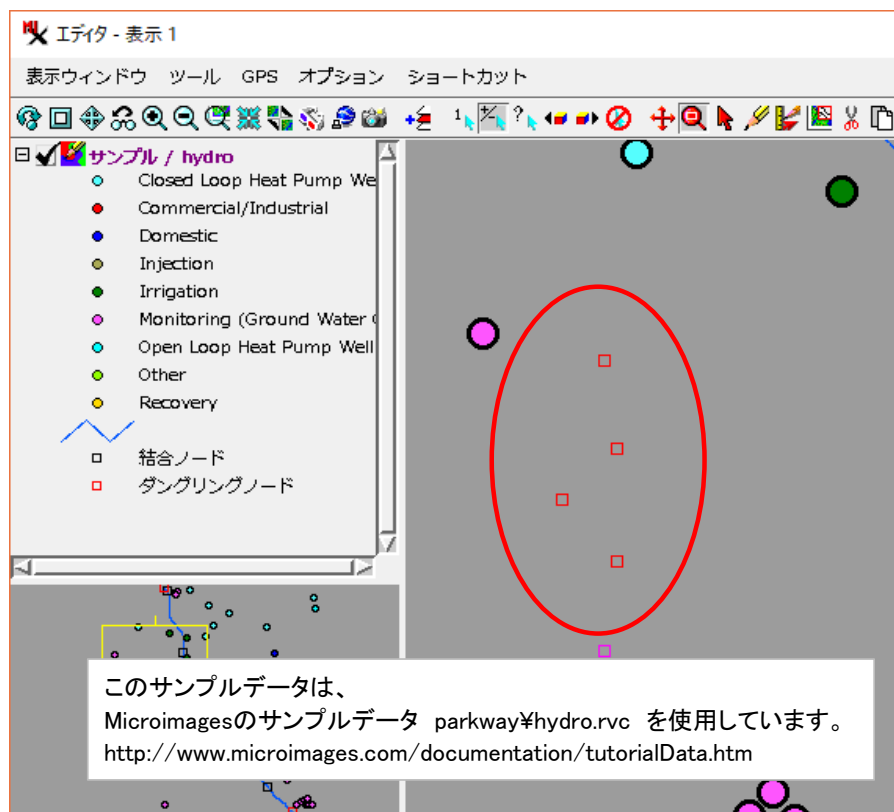
[アクティブ要素(選択した要素)にデータを入れる(Attach to Active/Marked Element and Populate)]は、選択した要素にまとめて同じ属性をアタッチする場合に利用できます。

## 1 準備 ～テーブルのアタッチメントタイプを確認します～

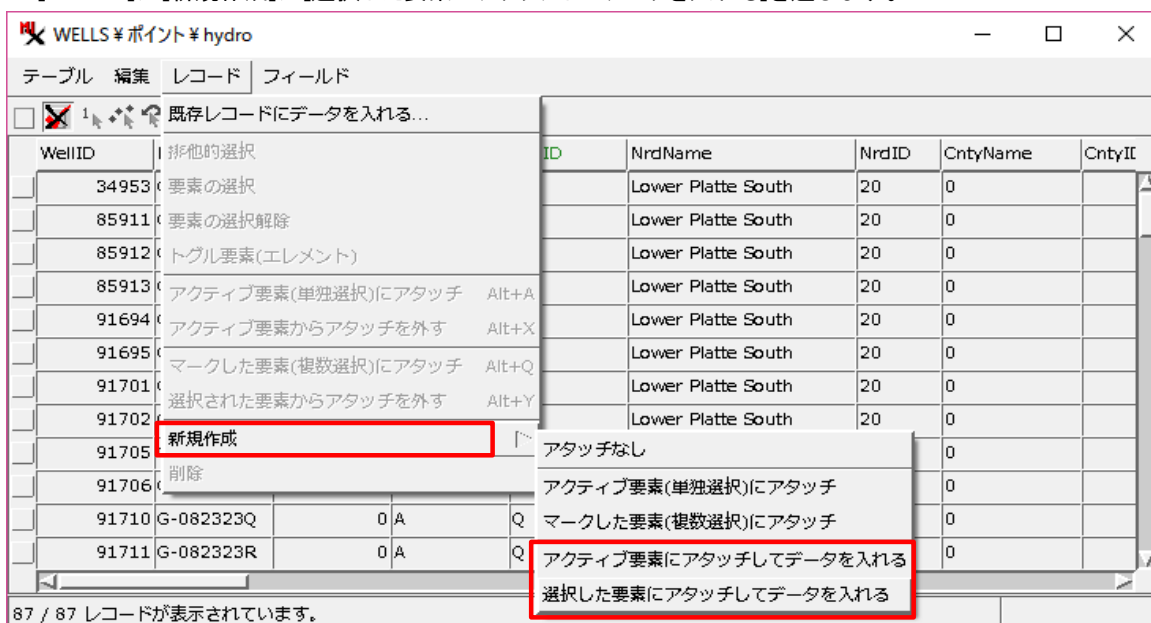
アタッチメントタイプが「各要素に対して厳密に1レコード」・「キーフィールドでリレート」以外の時、この方法が利用できます。

## 2 データの代入 ～テーブルを開き、新規レコードにデータを代入します～

▼ベクタデータで、新規レコードをアタッチしたい要素を選択します。



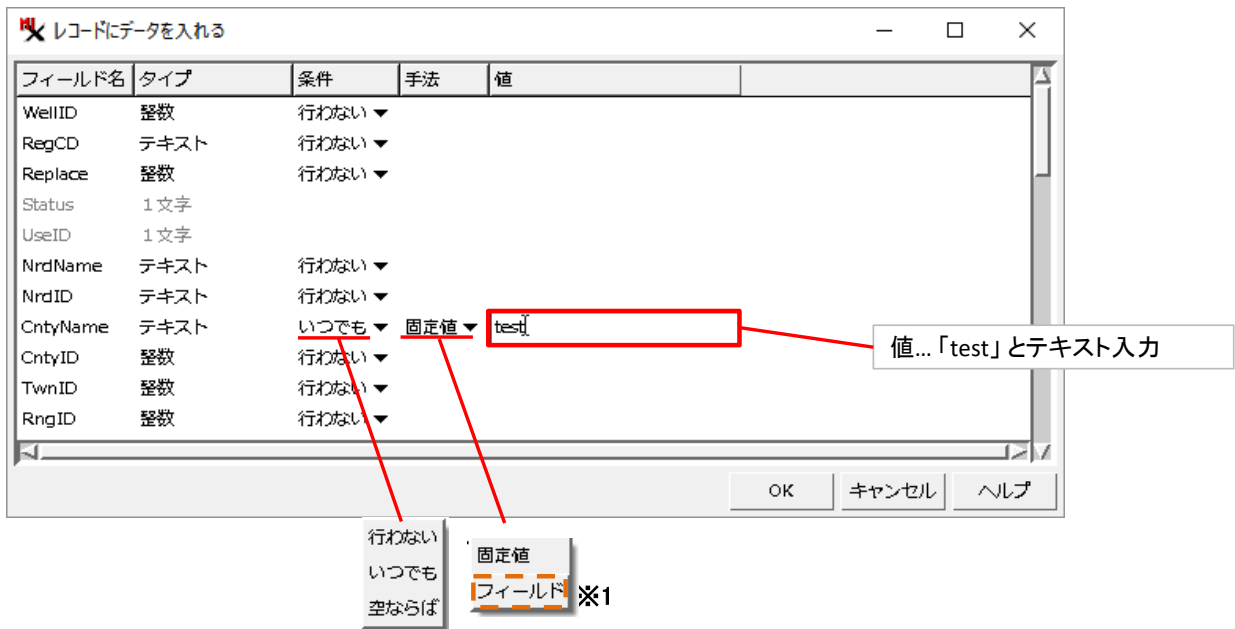
▼[レコード]>[新規作成]>[選択した要素にアタッチしてデータを入れる]を選びます。



※アクティブ要素のみにデータを入れる場合は[アクティブ要素にアタッチしてデータを入れる]を選びます。



▼[条件]・[手法]・[値]を選びます。



▼結果。複数選択した要素にアタッチしたレコードが作られ、固定値が代入されました。



※1 [手法]を「フィールド」にした場合

新規レコードに対し値を代入する場合、選べるフィールドが限られます。

「Internal」テーブル・「(要素)ID」テーブルに含まれるフィールド等

作成されるレコードは複数要素に対して1つです。

複数要素を選んでいても、新規に作成されるレコードは1つです。

従って、参照フィールドに異なる値が入っていても、代入される値は1つです。